

目 次

公民館白梅分館20周年記念誌の発刊にあたって 公民館館長 島崎正雄
公民館と私 公民館運営審議会委員長 田中加代 …… (3)

1 最近10年をふり返って

- (1) 最近の10年間の主催事業のとりくみから …… (5)
- (2) 自主サークルの変遷 …… (10)

2 最近10年間のあゆみ

- (1) 10年間の利用統計 (表とグラフ) …… (19)
- (2) 各年度の主催事業一覧 …… (24)
- (3) 平成12年度公民館白梅分館運営方針 …… (32)

3 最近10年間の白梅分館の実践記録から

- (1) 幼児対象 (保育室) 事業の10年 …… (44)
- (2) 少年対象事業の10年 …… (46)
- (3) 女性対象事業の10年 …… (64)
- (4) 自然対象事業の10年 …… (78)
- (5) 一般対象の事業の10年 …… (90)
- (6) 高齢者対象事業の10年 …… (125)
- (7) 利用者発表会の10年 …… (139)
- (8) 利用者交流会・研修会の10年 …… (152)
- (9) 親子映画会の取り組みの10年 …… (160)

4 公運審をふり返る

- この10年間の各公民館運営審議会委員より …… (169)

5 座談会

- 福生の公民館の過去・現在・将来 …… (173)

公民館白梅分館20周年記念誌の発刊にあたって

1980年（昭和55年）に熊川地区に公民館白梅分館が開館してから、早いもので20年の歳月が流れました。

この間、多くの市民のみなさんに多種多様な学習活動や文化活動に利用していただき、市民同士の新たな出会いが生まれ交流も深まり、熊川の地になくてはならない、出会いふれあいの場となっているのではないかと考えています。

さて、10年前に作成した「白梅分館10年のあゆみ～福生市公民館白梅分館10年の足跡～」では、公民館白梅分館創設期からいわば全力で駆けだした様子を記録集としましたが、今回のこの記念誌では、ある意味で安定した速度で事業を展開し運営して来た様子を描いたつもりです。

また、今回の記念誌では、最近の10年間の様々な変化を主催事業や利用者のサークル活動からふり返り、白梅まつりや座談会などを通して、今市民が考える“公民館が抱える諸問題”を明らかにし、今後の公民館が進むべき方向を模索してきました。

しかし、問題はこれらの課題を具体的にどのように解決・解消していくのか、そのノウハウが問われているのだと思います。

今後、職員一丸となってこの課題の解決・解消にむけて取り組んでいきますが、みなさんからも新たなるご指導や提案をいただければ幸いと存じます。

なお、この記念誌の作成にあたって、元公運審委員の方や現公運審委員長からの寄稿をはじめ、多忙にもかかわらず座談会に参加していただいたみなさん方、そして各方面からのご協力をいただき、誠にありがとうございました。

2001年（平成13年）3月

福生市公民館館長 島崎 正雄

公民館と私

公民館運営審議会委員長 田中加代

福生市に3館目の公民館——白梅分館が設置されて、早くも20周年をむかえたそうです。と言ったらよそ事のように、私の家から白梅分館が一番遠い距離にあるため、10年くらい前までは訪れる機会も少なかったのです。けれど、今では白梅分館のファンの一人といってもよいのではないかと考えています。

まず、白梅分館の門を入ると広々とした前庭の季節の花々が迎えてくれます。玄関前の梅の木には、小鳥のための餌台や巣箱が置かれていて、自然へのやさしい思いやりを感じます。

館内に入ると、決して広いとは言えないロビーがありますが、そのロビーには、いつも人の声があり、子どもたちや職員みんなの行き来があります。

ロビーにいて、そんな様子に接するとき、白梅分館の20年間の歩みが地域に根ざし、この地の暮らしと文化の拠点となっていることを深く感じるのです。

現在、高齢化社会を迎え生涯学習の大切さが言われている一方で、公民館や社会教育をめぐる状況は決して豊かとはいえません。

しかし、こうした時期だからこそ市民と公民館が連携し、協同して新たな方向性を掴むチャンスであるともいえます。

白梅分館の持つ地域性とこれまで培ってきた20年の歴史をふまえた新しい可能性に、大きな期待と希望を託したいと思います。



白梅まつりの様子から